

職員の皆さんへ

早くも春の気配が感じられ、平成 28 年度の締めくくりである年度末を迎えることになりました。

先月私は「改革」の重要性や意義について皆さんにその思いを伝えるとともに、機構改革における「子ども課」の設置についての協力を呼びかけました。結果的に「子ども課」の設置は、このあとに述べる理由によって平成 30 年 4 月からのスタートとして見送ることとし、今回は産業振興部を「農林水産部」に、また文化観光部を「文化観光商工部」に、それぞれ部の名称と機能を強化させるとともに総務部内の課名変更など小規模の機構改革にとどめました。

その延期の理由は、田平に所在する保健センターを本庁に集約することが「子ども課」設置の前提であり、そうなる田平地区住民の皆様のご理解、ならびに合併前の旧自治体住民相互のバランスを考慮した上でのご理解をいただくための時間が必要と判断したからです。行政の機構改革は、そのまま地域も含めた「まちの姿」にもなることから、出先機関のあり方と住民窓口の機能なども含めた利用者目線への配慮が不可欠ということもあって、新年度に実施する市政懇談会などを経て、きちんと説明を踏まえながら実現に結び付けたいと考えました。

この決断をした 2 月の臨時部長会において、私は部長各位を通じて皆様にお伝えしたことをここに改めて書き記したいと思います。

- ① 支所および出張所は市民の皆様にとって、よき相談窓口でなければならず、様々な問い合わせについても誠意をもって対応しなければならないこと。例えば「支所では分かりかねます」とか「本庁に尋ねてください」などとたらいまわし的な対応では、信頼を損ねてしまうこと。たとえ担当や任務を超える内容であったとしても「調べて再度ご報告します」とか「本庁から回答させます」というフォローアップ体制を徹底しなければならないこと。
- ② 本庁の職員も支所および出張所の職員との連携を緊密にし、スピード感をもった対応が求められる。出先からの問い合わせや要望についてもリアルタイムでコミットしていくことが信頼をより強固な

ものにし、市民の皆様からの理解と応援を得ることにつながること。

- ③ 今後の業務において書類整理など文書管理について改革マインドをもって整理整頓に心がける。紙媒体でファイリングするという従来の整理術から、電子データ管理を徹底させ、グループウェア上の共有ファイルやUSBなどの資料整理活用をきちんとしていくことで管理文書所蔵のダイエットに務めミスを減らす努力をする。同時に、書庫の整理を行うことにより執務室のスペース確保にも努力すること。(これらのことは先月、断捨離の考え方を添えて申し上げました。)
- ④ 以前に職員の皆さんに辞令交付した「地域支援員」としての活動を顕在化する。特に当該地域の出身者である職員の皆さんは、日常的に親密な近所づきあいなどを通して地域と役所の橋渡しの重要な役割を担っているはずであり、たとえそれが現在の肩書きや配属とは違っていたとしても市民にとって役所への良き相談相手として広く公務員としての自覚の下に課題解決に積極的に向き合っていたいただきたいこと。

以上が前回の臨時部長会での私からの提案でもありました。

そしてこうした姿勢で住民の皆さんに向き合っていたいただくことが、より一層行政組織への信頼が高まるものと確信しています。

いずれにしても、「改革」は誰のためにやるのかという観点に立てば、それは当然市民の皆様への利便性の追及であり、そのために行政組織自らが変革を恐れず弛まぬ努力を重ねるということです。

さらに、人口減少時代に立ち向かうためには、住民自治の実現としてのコミュニティ事業を完遂しなければなりません。現在、各地でまちづくり運営協議会が設立されており、徐々にその活動が活発になっています。そしてそれらは相互に連携し、刺激しあい、相乗効果をもたらしてくれるものと期待が寄せられています。私たちはこうした住民の皆さんの自発的な取り組みを後押しし、地域の資源や魅力を活用して次代に誇れるまちづくりを実現しなければなりません。

その地域にしかない『お宝』を「探して」「磨いて」「誇りとして」「伝え」そして「興す」という流れにおいて楽しく実りあるまちづくりに取り組んでまいりましょう。その場面において公務員として何をなすべきか、どのような役回りでご近所の方々の期待に応えられるか、率先して参加してください。それは取りも直さず「地域支援員」の重要な責務であると思います。

さて週明けから3月定例会市議会が始まります。平成29年度当初予算をはじめ重要な議案が目白押しの状態です。一つひとつに説明責任を果たしながら、有意義な議会となりますようそれぞれの立場での奮闘に期待します。

平成29年3月1日

平戸市長 黒田成彦